

# 筆山

第14号 / 1992. 7

土佐中・高同窓会 関東支部会報

〒112 東京都文京区水道1-10-7 同学社気付 ☎03-3816-7011 / FAX 03-3816-7044 編集人 / 戸田博之 (38回)



絵・向井隆豊 (44回) 「気」

一同窓会員の願い

同窓会員は何といつても母校の動勢が一番気にかかることであり、集まれば、野球その他のスポーツや進学状況等がいつも話題の一つになる。最近の世界の流れとして、『地球は一つ』という思いが益々強くなり、各国固有の文化の尊重と育成は当然だとしても、もう一国だけの利益追求ではどこの国も生きては行けない時代になってきた。世界的視野でものを考える人、国際社会の各分野で日本を代表して活躍できる人の登場が望まれる。

我が母校が私立である事の利点を生かし、又、坂本龍馬、吉田茂を出した土佐人気質を活かして、有能な人材への国際的基礎的知識の教育を一つの特徴に出来ないものかと思う。語学教育についていえば、吾々の時代の語学教育が読み書きは出来たが、会話能力の養成は不充分だった事から、若い時代でこの方面の教育強化が痛感される。もちろん、それは単に知識や語学だけの問題ではなく、考え方の問題ではあるが、是非考えてもらいたいものである。

五回 北岡 龍海





## 会長になって一年

同窓会々長 町田 守正

(二六回)

かねて間違つて会長になつたと申し上げている通り、私はどうにも同窓会長に自分がふさわしいと思えないままに、はや一年がたとうとしています。それでも幹事長はじめ役員の皆さん、各支部の方々が支えて下さるもので、どうか時をすごしてきました。

母校では今年の大学進学やスポーツ・文化各方面で、いくらか向上した成績がおさめられ、まずは結構なことですが、それはまだ復興の大波とは急にはいかぬし、むしろこのままでは、更に下降をたどりはせぬかと心配する声もたえません。開校記念碑の桂月の嘆きの言葉は今もつづいています。

しかし、同窓会は応援団で、プレーするのは生徒と先生方であり、応援団がグラウンドに降りていたり、プレーに割って入るのは適当でありません。ねばり強く同窓生の善

意と愛着の想いをあつめて、さわやかに応援歌をうたい、声援をおくりつづけてゆきたいものです。

先生方も生徒たちも、そして父兄の皆さんも、みんな自分たちの分とレベルを自覚して、より高くより真実なるものを求めて日々努力を重ねてゆけば、母校に栄光の日は必ずよみがえると信じて、同窓

## 町田先生の思い出

三二回生

吉野 保徳



まだあげ染めし前髪の林檎のもとに見えしとき

前にさしたる花櫛の花ある君と思ひけり

中学二年の社会科(国語ではない)の時間に、先生は藤村の「初恋」の詩を、黒板一杯に書き、朗々と読み上げられました。一同「初恋」の題目につ

のみんなと共にその絆を、より強くより大きくしてゆくために、お役にたきたいと念じています。

維新とその後の歴史的栄光の時代今いざこと言われる高知の片隅で、私も、この土地にかかわった人々が、必ずや愛し、懐かしみ、思い入れしてくる町をつくり育てようと驚馬にむち打って毎日汗を流しています。

最大のエリアと力をもっておられる関東支部の皆様、どうかこの上ともよろしくおねがいいたします。そして皆様それぞれに一層ご発展を上げられますよう、なお益々のご健勝をお祈りします。

られて興味津々、授業に集中したところで、本題である「道の歴史」の講義が始まった。先生の狙いは、その第四節

林檎島の樹の下に

おのづからなる細道は

誰が踏み初めしかたみぞと

問い賜うこそ恋しけれに あったのである。

当時、まだ二十代であられた先生は、まさに情熱とロマンの人であつた。高校時代の世界史で、フランス革命を語られる先生の市民革命に没入しきった表情としぐさが、今も目のあたりに浮かんでくる。

中学三年の時、クラス担任になつていただいた。夏の本山村キャンプでは、当時高校三年生の公文俊平(28回)さんを同行されて、先輩の警咳に接するチャンスを与えて下さったのも、私にとつては貴重な体験であつた。その後、公文さん、竹内靖雄(29回)さんからは、図書部長の重責を引き継ぎ、大学時代の公文さんからは折に触れて学生生活の香りのようなものを運んでいただいた。

佐川から通学していた(往復約四時間)私の事を心配して「高知市内に住み込みの家庭教師先があるが」と言つて下さったのも、その頃の事である。高校に進学してから、もっぱら世界史の時間だけの接触となつたが、まさに歴史とはダイナミズムであることを強く印象付けられる講義に魅了され、大学では東西交流史を専攻したいなどと夢を描いたこともあつた。

筆山編集部から私に与えられた課題は、土佐中・高時代を通じての「先生」としての思い出である。しかしながら、先生とは卒業後も何かとお会いする機会が多い。ついこの二月にも東京へ高知便でお目

にかかり「げんきかよ」とお声をかけていただいた。年初の関東地区同窓会、昨夏の本部同窓会(先生が同窓会長に就任された)などでも、時にはご子息を交えて酒を酌み交わす機会をもつことができた。少しさかのぼって、先生が県会議員を勤められていた頃にも、お仲人をお願いしたという同期の上村貫一君と一緒に、新橋・銀座界隈でお目にかかるチャンスが数回あつた。

いつお会いしても、お元気で若々しいその眼の色と声の音は、少しも衰えを見せない。それどころか、その美しい白髪と見事なコントラストをなす、血色のいい口元からほとばしる言葉の端々に、隠しても表れ出る政治への情熱は、若き先生時代にフランス革命を語ったロマンチズムからずっと尾をひいているように感じられる。

先生、いつまでもお元気で頑張つて下さい。



スクープ映像で……

## 『ソ連邦崩壊』を記録

日本テレビ報道局  
チーフプロデューサー

南 勝次郎(38回)

「日本テレビ特別取材班……あなた達は一九九一年一月の恐怖の日の困難に際し、リトアニア国民とリトアニア最高会議に於ける積極的な取材活動を行なったことに対し、リトアニア最高会議は、ここに

謝意を表します。ジャーナリストの武器である言葉とテレビカメラによってソ連軍の侵攻に反対し、リトアニア独立の達成に協力したことに深く感謝します。……」

今年3月11日、リトアニア



ランズベルグ議長から特別表彰状を受ける筆者

共和国の独立記念日に行なわれた『血の日曜日』記念名誉メダル授与式で、ランズベルグ最高会議議長から日本テレビのソ連横断特別取材班(代表、南勝次郎チーフプロデューサー)に対し贈られた特別表彰の内容である。記念メダルはリトアニア独立に貢献した内外の人達、約一千人に対し贈られたが、『特別表彰』は唯一、日本テレビだけに贈られた。この式典に招待された私は、この席で一つの『約束』を果たすこ

とが出来た。それはランズベルグ議長に日本テレビが放送した『特別企画 ソ連横断4万キロ』のビデオテープを渡すことであつた。

昨年10月、モスクワでのクイーター後のリトアニア緊急取材で、議長が最初に発した言葉は「あなた達が放送した作品をみました。ビデオテープのコピーを下さい。自由の記念として!」であつた。

私達が製作・放送した特別企画、ペレストロイカに揺れる巨大国家ソ連邦の激動と崩壊を描いた、『感動!』として発見!ソ連邦横断4万キロ(激動編)。(平成3年3月25日、日本テレビ系全国ネット)

は、ゴルバチョフが初来日した昨年4月18日ソ連国営テレビ局のゴールデン枠でノーカットでソ連全土に放送され、人々に大きな驚きと反響を巻き起した。この作品には、保守派の嫌うソ連軍のビリニウス侵攻の生々しい模様が描写されていたのだ。

式典の後、あの深夜ソ連軍の攻撃を受け占拠されたテレビ局の前に立った。戦車の空砲で地面にたたきつけられながら取材した場所には、犠牲となった人々を鎮魂する十字

架が立ち並び、平和への祈りを捧げるモニュメントとなつていた。

今回の企画は、シベリア抑留という昭和を生きた父親(越知町在住)の軌跡をたどりつつ、日ソの歴史の深層を見極めたという個人的な思いが発端であるが、それが現代史を揺るがすペレストロイカのソ連の運命と深く関わり合い、テレビ・ジャーナリストにとつて幸運なめぐり合わせとなつた。

酷寒のシベリアから、灼熱の中央アジア、極北の地等を踏査し、バルト三国を経てモスクワへの世界で初めての車によるソ連横断取材は、ロシア革命から七十有余年、まさに「社会主義帝国・ソ連邦の臨終」に立ち合い、それを見届ける旅であつた。企画から足かけ3年、撮影日数170余日、取材したVTR632本、延べ316時間にもなる貴重な映像記録である。これが、リトアニアの独立と自由を守つたと評価された『情報の源泉』の全てである。

この作品は、リトアニアの特別表彰のみならず、平成3

血の日曜日(1991.1.13)  
ビリニウスに侵攻したソ連軍

年度の日本新聞協会賞、日本民間放送連盟賞・報道部門最優秀賞、そして第31回日本・テレビ技術大賞と数々の栄誉を賜ることが出来た。放送、そして新聞という日本のマスコミを代表する皆様をはじめ、各方面からの励ましに、お礼を申し上げます。

「継続は力なり」という言葉があります。今後とも、激動するソ連をはじめ、国際的視野にたったテレビ報道にこだわっていく覚悟です。

ハシベリアV

流水の果てに大陸ひらけ立つ

ハ父へV

夜桜や土佐の男の夢をみる



## 関東支部だより

### ●関東支部活動報告

▽1月11日▽新年総会(サンケイホール・二六四名・講演「7回生公文公氏」)▽1月18日▽関西支部総会に溝淵幹事長・浅井顧問出席▽1月25日▽広島支部総会に鶴和副幹事長出席▽2月1日▽東海支部総会に溝淵幹事長出席▽同日▽筆山13号ならびに支部名簿発送二八五三通。日本テクナートにて。▽5月13日▽筆山編集会議▽6月23日▽筆山編集会議

### ●年間会費3千円納入状況

今年より会費が3千円になりましたが、四月末日までに765名の方からご協力頂きました。ありがとうございます。未納の方のご協力よろしく願います。振替

東京7-142816土佐中・高同窓会関東支部事務局

### ●支部名簿についてのお詫び

今年一月に発行しました支部名簿の住所欄で、マンション名や棟・部屋番号などが脱落しているケースが相当数見つかりました。原因を調べましたところ印刷段階でのミスと判明しましたので、正誤表

を作成致しました。ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。なお、異動等に伴う補遺版は逐次作成したいと考えていますので、住所・勤務先等の変更がありましたら事務局までご連絡下さい。

## 母校だより

### ●移動(敬称略)

《退職》岡部淳之助(物理)

《新任・常勤講師》藤岡優太(数学)

前田勲(国語)

《新任・時間講師》三枝重宣(化学) 岡部淳之助(地学) 西沢映子(家庭)

山下多可子(工芸) 井上隆夫(体育)

●部活動

吹奏楽部恒例のスプリングコンサートも27回を重ね、4月25日県民文化ホールで行なわれ盛会でした。

運動部は各種大会に出場、左記大会で優勝

剣道(物部村剣道錬成大会)

バスケット(春季大会)

柔道(県下武道大会)

ハンド・男(春季大会)

バスケット(中学選手権) 野球・中(アラキ杯)

(高知市新人大会)

また、5月22日より県体育大会で、本校選手団は次の様な立派な成績を残しました。

男子・ハンド(優勝) 剣道

(2位、個人3位) 柔道(2

位、中量級2位) テニス(3

位) バスケ(3位) 卓球(3

位、ダブルス3位) 陸上(千

六百里13位、二百3位)

女子・テニス(2位、シン

グル2位、ダブルス優勝) な

ぎなた(3位、個人3位)

高校野球は明徳に3対2で

惜敗しましたが、力を伸ばし

ており、部員も32名という創

部以来の大世帯となり、籠尾

監督も「本年夏、来春、夏の

間に必ず甲子園に駒を進めて

みせる」と張り切っています。

(文責・扇谷)

### ●進学状況

北大1(1) 早大34(29)

東北5(3) 慶大25(13)

東大8(4) 青山17(19)

東工2(6) 上智5(8)

お茶1(2) 中央11(16)

一橋4(0) 東理30(27)

名大3(2) 日本25(21)

京大5(6) 明治23(18)

阪大7(6) 立教14(5)

神大6(4) 同志11(8)

高医7(9) 立命23(17)

九大4(1) 関西16(14)

自医2(1) 関学21(11)

( ) 内は91年度

## 本部だより

●「谷川寛三(14回)さんの科学技術庁長官就任を祝う会」を、1月15日三翠園ホテルにて、同窓会主催により開催しました。谷川長官ご夫妻を迎え、森田校長、宇田理事長、

今回の目的は、今年の秋で十周年を迎える当社の『対難民キャンプ眼鏡プロジェクト』が、来年五月までに予定されているカンボジア難民三十万人の祖国引き揚げによって新たな局面を迎えるため、今後のスケジューリング調整を行うことと、カンボジアの眼鏡事情を直接見て当社及び業界

西山振興会会長、町田同窓会会長をはじめ、二百余名の参加を得て盛会裡に終了する事ができました。尚、母校出身の国会議員、堀昌雄氏(10回)から祝電をいただいたほか、西岡瑠璃子氏(28回)、山本有二氏(46回)、中谷元氏(51回)の各議員にもご出席願ひ、会を盛り上げていただきました。●2月1日、土佐高卒業式で町田同窓会会長が、第67回生三三七名を前に、新同窓生歓迎の祝辞を述べるとともに、創立70周年記念の同窓会名簿を全員に贈呈しました。●平成4年度同窓会『総会』を8月15日(土)午後4時より、三翠園ホテルにて開催します。旧盆等で帰高される同窓生の皆様、多数のご参加をいただきました。ご案内します。池上 武雄(28回)

として何か役にたてる事がなかろうかを検討することにありました。

我々はバンコックから約一時間、空路にてプノンペンに入りました。到着した空港はとも一國の首都の空港とは思えないほど荒れ果てておりました。粗末な建物には真夏にもかかわらず冷房はなく、



## 東海支部だより

「土佐高くらぶ」から同窓会の東海支部に脱皮して四年になります。現在、東海地区在住の同窓生は二百人前後ですが、年々の異動も激しく、年二回の集まりには三、四十人が顔を揃えます。

今年の第一回の集まりは二月一日に名古屋駅前の中華料理店で開催されました。ハイライトは中村市出身の弁護士中西英雄氏（愛知県の高知県人会会長）の講演で、酒の上での刃傷沙汰は高知県が全国一であるとの話をはじめ、ユ一モアたっぷりの話で、後の感想として誰かが曰く、「こんな話を早く聞いておけば遺産の相続をもっと上手にしたのに！」

支部長としては、年寄りたちの先輩面はほどほどにして、若い人（特に女性）たちも一緒に楽しめる会にしたいと願っております。

春日井市在住で一回生の寺田良喜さんが昨秋亡くなられました。謹んでご冥福をお祈りします。水谷 昭（22回）

## 関西支部だより

●1月18日、パークホテルに

て新年総会開催。会報『なんぶう』8号を発行しました。

## 広島支部だより

●1月25日、広島ガーデンパレスにて新年総会を開催しました。関東支部からは鶴和千秋副幹事長（41回）にご臨席頂きました。母校・本部や東海、関西支部からも来賓総勢8名、それに今回初めて山口県在住者（25名）にご案内したところ3名、広島支部から38名、和やかな集いを持つことができました。今回は、男女共学の原点に戻り、堀島（永野）由利さん（38回）、岡林靖之さん（35回）のお二人にお話をさせて頂きました。

●1月18日、関西支部。2月1日東海支部の新年総会に出席させて頂き、大いに交流をさせて頂きました。

●来年の新年総会は、広島支部設立5周年記念となりますので、『青春について同窓生は語る』位のテーマで、パネルディスカッションを試みてみようかと事務局では考えています。1月15日（金）、広島ガーデンパレスを予定していますが、ご都合のつく関東支部の皆様のご来広をお待ちしています。小島一洋（31回）

猛烈な暑さのなか、二十ドルでビザを取得し入国しました。空港からホテルまでの道路事情は最悪。停電が度々起こるため信号が全くなく、交通違反しても取り締まる人と車がないため、交通ルールはメチャクチャ。空港からホテルまでのタクシー料金は平均十五ドル。お金として使用できるのは米ドルのみでした。ちなみにこの国で一つしかない超一流ホテルのボーイさんの日給が二ドルとのことでした。

ただブノンベンには地雷の心配はなく、緑におおわれた大変に美しい街でしたが、戦乱による破壊がいたる所に見られました。それでもマーケツトは活気にあふれ、着ているものは粗末でも、人々の表情は明るく輝いているようにみえました。私は、一瞬タイムマシンで終戦直後の日本に戻ったような気がしました。

カンボジア復興には明石さんをはじめ日本の方々が深くかかわっています。カンボジア難民受入れの責任者として現地で働いているUNTAACの日本人スタッフの方にお会いしました。彼には奥さんと三才の子供さんがいました。

翌朝早く難民受入れのため国境に出発しなければならぬ。その夜、地雷撤去でたとえ命を失っても悔いはありません」と、遅くまで我々に熱っぽく状況を訴え、プロジェクトへの協力を要請したその姿には、日本人として、否、人間として心から感動を覚えました。

カンボジアのメガネ事情は我々にとって驚くべきものでした。ボルボト派が、メガネをかけている人間を、インテリで旧支配層として家族共々ことごとく殺害したため、メ

ガネを持っていた者は全てメガネを捨ててしまった結果、極端に言えば国中にメガネが全然ありません。現時点ではサングラス店を除いてはカンボジア国内に一軒のメガネ店もありません。嘘のような話です。メガネの寄贈を緊急に実施すると共に技術者養成のための各種援助の必要性を強く感じつつ帰国の途につきました。

UNTAAC 国連カンボジア暫定統治機構

## カンボジア 眼鏡視察

富士メガネ / 38回生 窪田 秀忠



プノンベンのメインストリート風景



## 独占インタビュー

ますます盛ん!

5 回生  
北岡龍海氏  
(筆山会会長)

『筆山会』という名前が本紙に時々登場する。ゴルフの記事をカットしようとしたら、事務局長が血相を変えて復活してしまった。よほど権威ある集団なのかなあと、不思議に思った。ところが内情を知るにつれ、筆山会とは関東支部の中の「ゴルフと飲み会は何をさしおいても」という道楽且那衆の親睦団体であることが分かって安心した。

その旦那衆を率いる北岡龍海会長が傘寿のお祝いの後、渡米され、しかも、『国際オゾン学会』にて研究発表をされたという。「エッ、八十を過ぎて……金婚旅行?」「いや、きつとゴルフぜよ」という巷の聲が飛び交う中、半信半

疑で、帰国された会長に早速インタビューを申し込んだ。

「まず、渡米の目的は?」

4年毎に、気象学者を中心にオゾン層の測定、及びその影響について研究発表と意見交換を行なう『国際オゾン学会』が世界各地を巡回して行なわれているが、今回は6月4日から10日間、米国ヴァージニア大学で開かれた。前回の西ドイツでの学会で、国際地球観測年30周年を記念した『オゾン研究に功績のあった25人』の特別表彰を受け、その際発表した論文が実証できたので……

「具体的にはどんな研究を?」  
ラジオゾンデと長波(赤外線)によるオゾン測定法とそ

の誤差についての研究だが、一口に言えないので読んで見て下さい。(渡された論文は全て英語で、その上ギリシア文字で数式が一杯。ヤバイ)「オゾン」の研究は何時から?昭和9年、大学を卒業して、中央気象台(現気象庁)に勤務してすぐに恩師から指示を受け、オゾンの赤外線による測定方法を研究し、冬の富士山頂上で実験したが、一回目は見事失敗。それ以来のつきあいです。ドブソン(英)による、現在一般に使われている分光器を使った測定方法は、夜や雨の日には使えないので、オゾンの研究の目的は?最近、オゾン層の破壊による強力な紫外線が皮膚癌を引き起こすことが注目を集めているが、これは生化学的な分野の話で、我々はオゾンの測定により、気象変化を水平方向だけではなく垂直方向にも解析できるようにした。

「80才というお歳について?」

今回の学会でも事務局長のボリス博士から、最終日のレセプションの際に「ドクター・キタオカは80才の高齢にもかかわらず、今回も素晴らしい研究発表を……と、特別に紹介され、面はゆい気持ちがい

た。自分ではあなた達と同じ気持ちだし、研究には年齢、国籍は関係無いと思っている。若い人達に一言。

今日、全ての分野で国際協力に常識で、それに対応できる人間になって欲しい。

「ゴルフはできましたか?」

いや実は、出る前に荷造りをして家に「ゴルフバッグも入れちよいとうぜ」と言ったら、見事叱られ、持つて行けなかった。ところが、会場の大学構内にちゃんと立派なコースがあつて、はるかむこうに、一組見えるだけ。市内観光の時とレセプションの時に、旨くやれば抜け出して2ラウンドは回れたのに。惜しいことをした。

『老いてますます盛ん』という言葉がある。その言葉の前半分が無関係のような北岡会長のバイタリティーに圧倒されながら、三番町の事務所を後にした。(藤宗)

北岡龍海さんの略歴

明治45年朝倉生まれ。東京帝国大学理学部卒業後、中央気象台に就職。初代気象大学校長、気象研究所所長。現在は富士通ソフトウェア顧問。理学博士。著書多数。前関東支部支部長。

ぐんぐんバンク

四国銀行

本店/高知市南はりまや町1-1-1 ☎(0888)23-2111代

店舗/高知県下74店舗・徳島県下27店舗・香川県下

8店舗・愛媛県下7店舗・本州地区11店舗



四国銀行のイメージキャラクター「熊手」が、お客様の手を助けてくれます。



思い出の先生方 ⑩ 片岡 満先生 (昭和58年  
逝去)

## おかあちゃん先生

長女 近藤 靖子(三四回生)

新緑の美しい五月になると花屋さんの店先のカーネーションの花が、いつの季節よりも鮮やかに見えます。種類も豊富で、赤や白だけではなくピンクや黄色やブルー、そして赤と白が交じったものなどたくさんあります。今ではもう、デパートの商戦のひとつのようになった五月の第二日曜日「母の日」ですが、私にとっては、母との思い出がいっぱいです。

(7) 母は、土佐中・高で二十年近くお世話になりましたが、学校がとても好きでした。そしてそこに学ぶ学生たちひとりひとりを愛していたと思います。『お母ちゃん』と言うあだ名を頂いていたようですが、全く公私ともにその呼び名がぴたり。よく笑い、よく叱って共に泣き、もりもり食べて丸々太り、とても朗らかでした。

かでした。

自分の子供は、女の子二人でしたが、どういう訳か男の子が好きな様子でした。学校では、眼鏡をかけている男子生徒に「ちよつと、そのメガネ!」などと呼ぶこともあったようで、当時近眼なのに眼鏡をかけずに気取っていた私など母に「そんなこと言われん、傷つくき」と言ったりもしましたが、母はそんなことはおかまいなし、天真爛漫に「眼鏡をかけて可愛らしいき『メガネよ!』」とすましていました。一事が万事そんな風で、自分流のやり方で愛情いっぱい生徒に接していたようです。

母が土佐中・高に在職していた間に、私達姉妹も土佐に入学し卒業しましたが、母はそのことも嬉しい様子でした。家庭人としての母は、全く

のやさしい母でした。余り自分の母をほめるのは心苦しいのですが、料理も上手、編み物も縫い物もするし、私から見るとスーパーウーマンでした。小鳥を飼うことや、草花を育てることも好きで、狭い庭いっぱいに真紅や、ピンクのゼラニウムをふやし、健康のためにとアロエの鉢も沢山ありました。

「お母ちゃんがしちやあ、お母ちゃんがしちやあ」が口癖で、なんでもやつてくれていたように思います。そんな母も晩年は足が少し不自由になり、外出も思うようにでなく、かわいそうな思い

もさせました。今から九年前の初秋、七十才で新しい旅立ちをしましたが、病床にありながらも、私が「あつ大根買の忘れた」と言うのと、「お母ちゃんが行ってきちやあ」と言っていました。

私が東京で学生生活を送っていたころ、母の日に「百万の人に百万の母あれど、我が母に勝る母なし」という言葉を贈ったことがあったのですが、母はとりわけその言葉が気に入っていました。

私達姉妹も母親になつて久しいのですが、「母のようにはなれないね」といつも話しています。



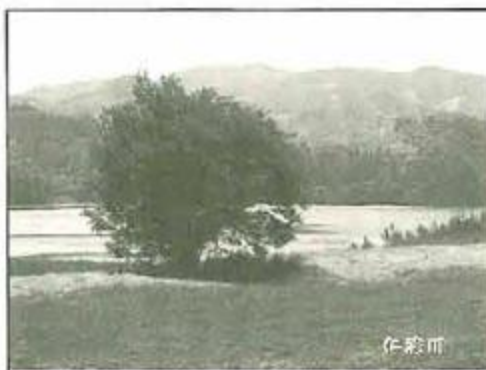
昭和 30 年頃の旧木造校舎前で

龍馬も、鯨も待っている  
ふるさと高知

暮らしいきいき、ビビッドバンク

高知銀行

東京支店 中央区八重洲2-6-21 (電) 03-3273-3061





## 筆山編集局スタッフ紹介

## 編集者求む！できれば若い女性

あれは、三年前の夏。学年幹事でもないのに案内状を貰い、初めて出かけた幹事会。それが間違いの始まり。事務局長の一言、「今まで筆山の編集に携わってこられた、小松勢津子氏が仕事の都合で編集長をお辞めになります。今後は、新編集長の戸田博之氏を中心に編集局を設け、集団で筆山を作る事になりました。」

つきましては、今日の出席者の名簿の第三列目の方々に担当していただきます。一列目は新年会担当、二列目は名簿作成担当。宜しくお願いいたします。名簿は卒業年度順に並べただけで、何の作為もありませんが、宜しく。」

これが苦行の始まり。何が『作為が無い』ぜよ。作為が無いどころか、悪意が見え見え。編集委員は皆な

個性が強いし、声は大きいし、言うだけ言って、後は、頼むぜよ。藤宗君。紙面があいたこの際、もう書きまくっちゃうきに。

編集長兼カメラマンの戸田氏(38)は川崎製鉄の国際派ビジネスマン。二人の奥さんが自慢で、いつも定期入れに写真をしのぼせている。ただ、年代もので手垢で黄ばんでいるの

がいじましい。食中毒騒ぎの際に「うちののは、殺しても死にませんから」といわれたのは記憶に新しいことだが、その奥さんから「タダで聞かせたら、もったいない」と折り紙をつけられたカラオケは玄人はだし。ブラジル仕込みの『アドロク』が出たらもうマイクは彼の一部。周囲におだてられて、一晩で37曲歌いっぱなしという戦歴あり。ただ、数多い彼の自慢話(全頁をつかっても書ききれない程)のなかで、頭の下がる話の一つ。高知で独り暮らしをされている御母堂に、上京以来、海外時代も含めて、毎朝必ず一枚葉書を送りつづけているという。にんにん真似のできる事ではありません。

広告部長の鶴和氏(41)は、司法書士。同級生の横原氏とともに花の六本木で、暗い毎日を送っている割には明るい性格。いつも笑顔で、手早く記事も書いて、何かと気配りをしてくれる。ところが、この笑顔が曲者。この陰に、ものすごい短気が潜んでいる。中学時代、彼が生徒会長の時以来のお付き合いです。何度叱られたことか。そのコワモテの彼がばやく、「こんなに

ひがちに広告を集めたのに、俺からも二万円ふんだくる。まっこと割のあわん役目。筆山は恐ろしいトコロじゃき」

顧問の岩谷氏(27)。公文教育研究会の教育主幹。『向陽新聞』創世期のメンバーで、たまにお出ましになって先輩風をふかしてさっさと消える。男三人は、昔、東京からわざわざ出向かれて、薄暗い部屋でありがたう御訓辞を賜われた悪夢、未だ醒めやらす。

そして、華(決してドライフラワーではありません)の女性トリオ。校正部長の内川さん(30)は、文学少女のみずみずしい感覚と、お歳相応の蓄積された教養をあわせもち、できあがった草稿に次から次へと赤を入れてくださる。「ここちよつとおかしいじゃない」「この文章、体言止めが多すぎて読みにくいじゃない」その一方では、お嬢さんからはアルバイトのスケジュールの管理を引き受けそのマネージメント料、息子さんからは

アルバイトで汚した作業服の洗濯代をしっかりと頂くチャッカリ屋さんでもある。

佐々木さん(33)は美術部長。本職のイラストの腕はいうに及ばず、なかなか洒落た文章をちよちよこと書いて下さる。歌の方も、編集長には負けてはいない。メゾソプラノで『サントワマミー』を絶唱すれば、天国のコーちゃんも思わずホロリ。さすが土佐高卒、才女の見本。一時期、双子のお嬢さんのステージママにかかりきりでお忙しかつたが、やっと前号の表紙を書いてくださった。尚、ご実家は土佐高ご用達の『かばんのマエダ』です。筆山を持つて行けば安くしてくれるそうです。

渉外部長の大和田さん(39)はスポーツウーマン。週三回のバトミントンの他、ゴルフ、テニス、ジョギング、なんでもござれの活動家。顔の広さと記憶力の良さで、〇〇先生のお嬢さんは、たしか〇〇回



編集会議の後で。左から、戸田(38)、佐々木(33)、内川(30)大和田(39)、鶴和(41)、藤宗(42)、岩村(41)の各氏



岩谷氏 (27)



永森さん (44)



岡崎氏 (53)



生の〇〇君の弟さんの……」  
というように、即座に原稿依頼先を捜して、お願いして下さる。筆山編集局には欠くことのできない存在である。この春から中央大学図書館にトラバークし、若い男の子に取り巻かれるようになって、その若さにますます磨きがかかってきた。

待望の新入りスタッフ、岡崎氏(53)。UPMという都市計画シンクタンクに勤務の好青年。何をとち狂ったのか、手を挙げて参加してきた。自らもミニコミ紙を発行していたという経験もあり、次期編集長の呼び声が高い。『Y&Y』のコラムを担当していた由里・由紀(55)コンビが「おじ様より、旦那様」と、いそいそと抜け出していった後だっただけに編集局には嬉しい出来事である。

そしてもう一人。本号から参加のホヤホヤの新人、永森さん(44)。新年会で夫婦で参加して、「藤宗さん、お元気？」と声をかけたのが運の尽き。新聞部の後輩ということで、その場で某大学教授の御主人に掛け合って勧誘。夫君曰く、「ほかにあちこち出かけてばっかりやき、かまわ

んよ」とは、さすが道理をわきまえた御人。子育て後の華麗な飛翔を期待しています。

かくいう私、総務部長を努めます藤宗(42)は、渋谷の裏店で設計業を細々とやっています。総務部長とはなんのことはない、なんでも屋さん。電話連絡、草稿作り、紙面割付等々。OA機器が一応揃っているので締切一週間前から出版社に様変わり。周囲に「好きだねえ」と冷やかに笑われながら、本業そっちのけ(実を言うとそれ程仕事がない)でパソコンにむかっている。基本的にズボラな性格で編集長から催促の電話がないかぎり何もしないことに決めて

込んでいるので、最後になってあわてまくる。しかし、その上をいくのが内川さんと佐々木さん。原稿が届かない。催促の電話を入ると「そこあけちよいて。何行分あるの？行数が決まらないと、私書けないのよねえ」……絶句。

ええい、ままよ。かくして、予定原稿で白抜きだらけの紙面が同社に送られる。すると魔可不思議なことに一ヶ月後、インクの匂いもかぐわしい筆山最新号が送られてくる。岩村さんご苦労様。

昭和25年頃、『東京朝日』の論説に大要項の如き論文が載った。敗戦の結果、日本人の価値観は百八十度の転換をした。世の父親達は、わが子の教育に自信を失い、一切を母親と学校にまかせて頼みなくなつた。この現象の『ひづみ』はいつの日にか必ずやってくるだろう」と。当時、私はこれを読んだが、

大したことはあるまいと、たかをくくっていた。然し、事態は我々戦前派の考えも及ばなかった『怪物』となつて我々の前に立ち塞がってきた。

### 甚太先生 歳時記⑤

## 大きな『ひづみ』

田内 瑞穂 先生

生徒の中から、失笑が起こった。一瞬、彼は自分を見失ってしまった様な空白感を覚えた。その後、この友人は数人の同僚に、憮然として、この体験を語った。

しかし、その中の三十才くらいの若い教師が彼の話に応えた。「僕らも、なんとも思いませんぜよ」

この話を聞いて、私は戦死した多くの戦友を思い、言ひ様のない怒りと共に、譬えようのない無力感を覚えた。そして今更のように、あの『朝日』の論説の『ひづみ』の大きさと、その執筆者の卓見に目をみはった。

あれから、更に二十年余の月日が流れた。そして、この国の混乱や犯罪は目にあまる。この『ひづみ』は論説の如く価値観の大転換によつて起つたが、それは言うまでもなく戦後の占領政策、東京裁判にその根元があり、その事は今や識者の等しく認める所である。

東大の会田雄次教授曰く、



(妄言多謝)



筆山会

## ●筆山会北岡会長

傘寿記念ゴルフ

第21回筆山会ゴルフは、北岡龍海会長（5回）の傘寿のお祝いとして10月23日、千葉県大栄CCで行われた。今回は雨が降ると顔をのぞき込まれる会長が、気象庁のデータを集められ、雨の降らない日を選定したため、好天に恵まれた。

優勝は参加唯一のマドンナ  
28回生の福本栄子氏がなみい  
る男性陣を後目に前回の準優  
勝に引き続き、ブッチギリで  
北岡会長ご寄贈の傘寿記念杯  
の最初の獲得者となった。

- ①28 福本 榮子 ②34 八井田 元  
③33 沢村 良節 BG 33 小松建紀  
その他参加者・5 北岡16 吉沢  
25 秋山25 山本25 野沢30 大町  
31 吉野33 池添33 千原33 竹田  
33 宮川37 和田38 中島38 三宅  
38 窪田41 小松44 萩野

●22回筆山会ゴルフ5月22日

大阪から参加の大町玄氏（30回）が2度目の優勝。28回生の福本栄子氏は前々回の初参加以来、準優勝、優勝、第3位と三回連続上位入賞を果たし、男性軍全員脱帽。北岡会長から副会長に指名され、

次回からレディースティーを使わないことになった。

- ① 30大町 玄  
② 47景山祐司  
③ 28福本栄子 BG 30大町 玄

BG 33 沢村良節  
 その他参加者・5 北岡 25 山本  
 26 近沢 30 浅井 30 阿部 30 原  
 33 宮川 33 小松 33 千原 33 秦  
 33 竹田 37 竹内 38 中島 38 三宅  
 38 高田 38 岡田 41 横原  
 次回は10月28日、レインボー  
 CCで開催予定。

## 近況報告

●田内 瑞穂 先生

……体の調子は極めて良いけれども、視力の低下で不自由しています。本を読むのが苦勞の種になっています。

畑は百五十本ほどの芋苗を植えましたが、雨がさつぱり降らず夕方は毎日バケツで水をやリ、結構良い運動になっています。玉葱は豊作でしたあちこちに配って、喜んで貰ったり、迷惑がられたりで、案外多忙です。

土曜日は小さなゼミナールで、女子高校生に古典講義の真似ごとをやっています。いやいやながら、やりはじめましたが、真面目な子が案外いますので楽しみの一つになっています。

最近の土佐は強いらしい、  
と少し前に聞いたような気が

する。野球ではない、剣道部のことである。今も、週一回剣道をやっている私としてもこれは注目すべきことである。そうしているうちに、昨年の夏、土佐の剣道部から手紙が来て、インターハイに出場するから寄付して欲しいという内容である。剣道部から手紙が来ること自体、初めてであるし、インターハイに出場するということは高知県大会で優勝したということであり、全く驚いてしまった。

御殿場で開かれた  
昨年の全国大会は残  
念ながら予選敗退で

終わってしまったが、今度は今年の春、愛知県春日井市で開かれた全国高校選抜大会では、なんと予選リーグを突破し、ベスト16入りしたというのである。しかも、強豪の九州代表を破つてのものであり、負けたのも、優勝した兵庫の育英に小差で敗れた、というものである。

その時の新聞記事のコピーが手元にあり、高知新聞とはいえ、その取り上げかたにはうれしいものがある。

剣道部ガンバレ

四九回生福富

廉

昭和四十二年。当時、剣道部は裏門（今の正門付近）のそばの廊下の突き当たりにあつた。ちようと担任が今もその職にあられる剣道部顧問の橋本先生であり、何人かで連れだつて入部した記憶がある。

中高一緒であるために、高校生の先輩がとても恐ろしく見えたものである。

その頃の団体戦の成績は、  
どの大会でもだいたいベスト  
4というのが我校の位置であ  
り、それ以下になったら坊主  
頭にするという決めになって

いた。という中で、我々の代になつた時、その位置が守れない。結局、皆な坊主にしてせつかく長髪の土佐に入つたのに、とくやしい思いがしたが、それ以降、こんなことがあつたかどうかは覚えがない。在学中、大変だったのは、中学三年の時から始まつた校

舎の建て替えの時のことである。前記の道場が一期工事ですぐ先になくなったため、それから三年近くの間、体育館の一階に今の道場ができるまで、ジブシー練習が続いた。

つまりは、他の空き教室を利用したり、あるいは校外に出かけて行ったり、という状態であつた。中でも、教室を利用したときは、床が強い踏み込み等考慮されていない一枚板のために、しょっちゅう床を踏み抜き、大工仕事が目課のような日々をおくつたものである。

あの頃の勢力としては、高知学園が常勝で、全日本で優勝したり川添先生のもとで学芸が力をつけてきた状態だったと記憶している。我々としては、同級の田村君が四国大会で個人優勝したくらいであっただろうか。

こんな調子であつたから、よけいに、今はスゴイと思つてしまふのである。ここへ来るまで、変わりなくご指導されてきた橋本先生、また、全く経験がなかつたのに剣道を始めた副顧問の得竹先生、色々のご苦勞も多かつたのではないだろうか。

最近の剣道部の活躍のおかげで、ＯＢ会がきちんと組織され、待望の名簿も作られた今後の目標は、まだ野球部も成し遂げていない全国制覇である。



しかし、なんといつても若い時は大いに努力奮闘することです。もう二カ月で80才になると何もかも思うようにはならず、昔のことばかりおもいだしています。

戦友あまた死なしめてなお  
無為に生き

驕慢の世に在るが苦しさ  
ご多幸を祈ります。

《編集局より》原稿同封のお手紙より抜粋させていただきます。尚、ご好評の甚田先生歳時記は今回をもちまして終了させていただきます。先生には本当に長い間ありがとうございました。

先生のご住所

高知市比島町2-15-9

電話 0888-72-4701

### ●52回 玉川 寿

昭和50年夏の甲子園大会で史上二人目のサイクルヒットを放ち、その後慶応大学、日本石油でも活躍された玉川寿氏(52回)が六大学春のリーグ戦から審判員として神宮球場に再デビューした。本編集部は突撃電話インタビューを行ったのである。

「審判の重要性を再確認したそうだが。」

「審判はみんな、家庭を犠牲にしたボランティアの上に成

りたつちゅう。そんな人に学生の分際でクレームをつけたらいかん」

「毎週末がつぶれて大変です。」

「それは仕方がないが、多少はオヤジとしての手を抜いちゅうかなと、自分でも思う。」

「(4歳と0歳のお子さんがおられます)」

「将来は高知へ帰りますか。」

「特に帰るつもりはない。今のような状態ですつといてくと思う。全国に支店が何ヶ所もあり、来年あたり転勤の可能性が強い。ひよつとしたら転勤の都合で四国の方に行くかもしれないけども……」

### 同期会

### ●30回 中城 正亮

5月16日、関東同窓会が新丸ビル地下、ボールスターで開かれ、約30名が出席した。

近況報告では、バブルが弾け苦闘する企業戦士が多い男性に比べ、子育て終り第二の人生を楽しむ女性の活発さが目立った。更にお元気なのは、吉田富士子、公文公の恩師お二人で、特に来春大船に開校する公文国際学園での人材育成にかける公文先生の情熱に圧倒された一タであった。

### ●33回 佐々木 泰子

6月6日、竹橋会館にて。33名の出席がまたニクイ。時にPKOだの牛歩せんじゅつだのと永田町も夜更し。われらTHSKOは牛歩せんじゅつ

仲良く楽しく友情を深めあう。二次会のカラオケも最後には肩組みあつての『ふるさと』で盛り上がる。来年もまた、

すきや橋ならぬ竹橋で……『君の名』も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！

「君の名」も、ぜひ出席に！



### ●名古屋ミニ33会

### 33回 宮川洋治

「6月11日に名古屋へ行くぜよ」関東支部総会や筆山会にいつも上京する池添氏に電話する。

「よっしゃ、ほんなら12日はとちよく」これでゴルフが決まり、平日休日の見境なく即決。やむなく有給休暇の手続き。数日後FAXあり「33会下記の通り開催……」当

日は豊橋から泊まり込みの富城(旧姓山村)をはじめ六名参集、翌日の予定も考えず、中年(初老?)のオッサンども深夜まで飲みや唄えの大騒ぎ。週末はいつもゴルフツア

ーでプロゴルフファームみたいな生活をしている二神は三日連続のゴルフの予定があり、ブツシュ大統領来日以来、対米関係の所為か何かと忙しいトヨタの久保地が欠席、残り四人で予定通りゴルフ。天候に恵まれ、帰りにはいっぱい土産をもらい(チョコレートにあらず)大変有意義な二日間であった。

●41回 鶴和 千秋  
去る5月16日、高知より懐かしい三枝先生をお招きし、赤坂『土佐』にて41回生の同期会を催しました。例年二十数名で細々と続けてきたこの会が、今回は『三枝効果』と言うべきか何と44名も集まり、店から溢れんばかりの大騒ぎ。気持ちだけは娘の假のオバサンと、どっちが先生か分からないようなオジサンが、26年前の悪ガキに戻って先生に甘えたり叱られたり。挙句には「4年後の卒業30周年には全員で、修学旅行をやり直すぞ」「ほんなら、今度は海外がえ

いねや」の声。土佐人の大声と大ボラは、赤坂の空に深夜まで果てることなく……あー恥ずかし。

●『最後の御奉公・宰相弊原喜重郎』塩田潮(40回)著・文芸春秋社(二千円)

●『みみずのかんたろう』田島征彦(34回)著・くもん出版(千五百円)

●演出家・竹邑類氏(35回)の二年目の個展が四月に東京・横浜・鎌倉で開かれた。

●向井隆豊氏(44回)の個展が六月に調布で、グループ展が銀座、日本橋で開かれた。

●『一つの流れ』(第10号)いよいよ発行

30回Kホームのクラス誌が誌齢を重ね10号となりました。A5判76頁の堂々たるものです。残念なことに今回は元馬路村

村長西野氏、及び大家、上村の三君追悼特集号となりました。吉田富士子先生と掛水雅彦高知新聞記者(52回)の特別寄稿もあり、誌面は志半ばにして逝った三君への思いがあふれています。

10号及びバックナンバーが僅かに残っています。希望者は発行所、30回、内川三保迄。

いねや」の声。土佐人の大声と大ボラは、赤坂の空に深夜まで果てることなく……あー恥ずかし。

●『最後の御奉公・宰相弊原喜重郎』塩田潮(40回)著・文芸春秋社(二千円)

●『みみずのかんたろう』田島征彦(34回)著・くもん出版(千五百円)

●演出家・竹邑類氏(35回)の二年目の個展が四月に東京・横浜・鎌倉で開かれた。

●向井隆豊氏(44回)の個展が六月に調布で、グループ展が銀座、日本橋で開かれた。

### 出版・展覧会

●『最後の御奉公・宰相弊原喜重郎』塩田潮(40回)著・文芸春秋社(二千円)

●『みみずのかんたろう』田島征彦(34回)著・くもん出版(千五百円)

●演出家・竹邑類氏(35回)の二年目の個展が四月に東京・横浜・鎌倉で開かれた。

●向井隆豊氏(44回)の個展が六月に調布で、グループ展が銀座、日本橋で開かれた。

●『一つの流れ』(第10号)いよいよ発行

30回Kホームのクラス誌が誌齢を重ね10号となりました。A5判76頁の堂々たるものです。残念なことに今回は元馬路村

村長西野氏、及び大家、上村の三君追悼特集号となりました。吉田富士子先生と掛水雅彦高知新聞記者(52回)の特別寄稿もあり、誌面は志半ばにして逝った三君への思いがあふれています。

10号及びバックナンバーが僅かに残っています。希望者は発行所、30回、内川三保迄。

いねや」の声。土佐人の大声と大ボラは、赤坂の空に深夜まで果てることなく……あー恥ずかし。

●『最後の御奉公・宰相弊原喜重郎』塩田潮(40回)著・文芸春秋社(二千円)

●『みみずのかんたろう』田島征彦(34回)著・くもん出版(千五百円)

●演出家・竹邑類氏(35回)の二年目の個展が四月に東京・横浜・鎌倉で開かれた。

●向井隆豊氏(44回)の個展が六月に調布で、グループ展が銀座、日本橋で開かれた。

●『一つの流れ』(第10号)いよいよ発行

30回Kホームのクラス誌が誌齢を重ね10号となりました。A5判76頁の堂々たるものです。残念なことに今回は元馬路村



## すきま風

■某月某日、久し振りで同期のM氏と赤坂へ。入ったお店のママは彼とは吉良川の幼馴染み。M氏は名家の坊ちゃんでも頭も良く、いくら憧れても遠くから心ひそかに眺めているのがやつの存在「だったとか」。又某日、土佐塾高校の職員をしている先輩と懇談、「去年うちの学校から、吾川村で二番目の慶大生が誕生した」との事。してみると我が事務所のパートナー吾川村大崎出身のY氏は、なんと村始まって以来の慶大生だったのか。更に某日、やはり同期のT氏と会食。彼と元野球部のI氏は高知小の二つしかないクラスのトップ同士で、揃って土佐中へ入学した。ニクラスの一番を土佐中に出してしまった高知学園では、後で担任の責任問題にまで発展したという。

いやはや、右を見ても左を見ても『神童』だらけの中で育ったものだ。にも拘らず極めて人間的で暖か味のある学園生活を過ごせたのは……そう、黙々と底辺を支え続けた我々の存在があったからに違いない。一人で納得してたら、

心の中をスキマ風が吹き抜けた。そして、赤坂の店も消えてしまった。

■ある銀行支店長のH氏(42)連夜の宴席を終えて、かなりご酩酊で帰宅。そのまますわアで眠り込んでしまった。肩をたたかれ、寝ぼけ眼で腕時計を見て「ありやもうこんな時間かえ、へんしも帰らんといかん」

この程度なら、身に覚えがあるご同輩も数多いかもしれないが、元準ミス高知の奥さん、少しも騒がず「タクシ―を呼びましょうか」。H氏も意識朦朧のまま、外に出て、車の中へ。電話で指示を受けていた運転手は、再び眠ってしまったH氏を後ろに乗せて近所を一回り。めでたくお家

## 豹変の怪

35回 伊野部 彦慧

89年の末ベルリンの壁が壊されて以降、ソ連の是も非もない一方的後退が続いている。我々無知な市民は何も分からぬままに、マア良かったと思っている。ある種の呑気さにおいて何も変わっていない。ただ一方、この慌ただしい2年間のマスコミの豹変ぶりは如何なものであろう。

先般、某教授はTVの論説で「ソ連の今までの悪質なやり方に…」とノタマわれた。思うに、こんなことは40年前から普通の市民なら常識ではなかったのか。だが当時は、ソ連・中国の健全さと美德を賞賛し、対して我が日本の政府自民党の悪と腐敗を暴く、これこそが某教授の使命であった筈である。その当人が、今になって「ソ連は悪質」とシャアシャアと仰る。「余の辞書に、厚顔無恥という言葉はない」と言いたいのだろうか。

ソノ道では有名な朝日新聞ならいざ知らず、NHKでさえ一体何に遠慮があったのだろうか。戦後ずっと、ソ連・東欧の内実、特に暗黒面については黙して語らずであった。それがベルリンの壁崩壊以降、民主化がどうだこうだと、随分元気の良い報道が続いてい

る。こんなものを見ていると、さては今までは隠していたなとつい勘ぐりたくもなる。

ソ連・東欧の実情については、その貧しさだけではなく恐怖感までも、すでに20年前からBBCのTVドキュメンタリーが手際よく教えてくれていた。だが当時、ソ連は社会主義的民主国家だと言い、BBCの番組は西側で仕組まれた反共の宣伝だと決めつけたのは一体どこの誰だったのか。それが今になって「ソ連は悪質」などと、いわば一昼夜にして豹変する。それも50、60男がである。オカシイと思わないのか、エッ諸君?

豹変の例は一杯ある。中国で文化大革命が始まるや「今や毛沢東思想の実践的集大成…」とほめちぎった教授が、五年後に四人組が逮捕されたと聞くや「過度な正義感に基づくイデオロギーの弊害…」とシドロモドロのいていたらくであった。

太平洋戦争当時は軍部の肩を持ち、親米派や自由主義者を売国奴よばわりした学者が戦後になると、隠れ共産党員や進歩的文化人にあたふたと変身した例が沢山あった。それが最近では再々度転換して保守的見解を吹聴するようになる。ナンダ?ドウシタんだ?と聴きたくなるのである。

## 編集後記

色々な事情があつて小金井の家を売り、国分寺に転居。

にたどり着いたそうです。その後、どうなつたかは教えてくれませんでした。後日、H氏が食事中に口の中の血管が破裂し救急車で運ばれたという噂を聞くにつけ、やはり、お酒は程々がよろしいようです。

長年住み慣れた小金井の家、と言いたい所、十六年前に買ったものの二度にわたった海外駐在のため実際に住んだのは結局六年と十ヶ月。

引越回数だけは着実に増え、結婚以来今度で実に十回目。その都度半分は処分してきたはずの衣類や家財道具がたまりにたまって普通の人のかの倍は下らず(それがたまるか)。多い分の大半は自分の趣味の物。文句を言うにも言えず。マツコトめつた。早速皆を呼んでの新居お披露目といきたいところ、この積み上げた荷物のために何時になつたら呼べるものやら。今度の編集会議は新居でやるから。振り出した約束手形は未だに空手形。もうちょっと待ちつちよつてや。来月になつたら。また空手形。(T)